

様式1	令和7年度 学校経営計画	広島市立沼田高等学校
学校教育目標 自主挑戦 ～大きな夢と高い目標をもって主体的に学び続け、果敢に挑戦する生徒の育成～		

目指す学校像(ビジョン) 1 全ての教職員が一致協力し、生徒一人ひとりの未来を切り拓く力を引き出し、グローバル化する社会の中で活躍できる人材を育成する学校 2 教育活動のあらゆる場面で規範意識を高めるとともに、生徒の自己指導能力を育成する学校 3 生徒が誇りをもち、活力に満ち溢れ、地域から信頼される学校	目指す生徒像（自主・自律・協働・挑戦する生徒） 1 習得した知識・技能を活用し、主体的に学び続ける生徒 2 感情をコントロールし、他者の立場で物事を考える生徒 3 地域や社会で多様な考えを理解し、他者と協働して課題を解決できる生徒 4 進路実現に向け、見通しをもって計画的に行動し、果敢に挑戦する生徒	求める教師像（自主・自律・協働・挑戦する組織） 1 高い倫理観と使命感を持ち、情熱を持って主体的に行動する教師 2 幅広い知識と専門性を持ち、自律的に学び続ける教師 3 主体的かつ協働して職務を遂行し、積極的に学校経営に参画する教師 4 総合的探究を軸にした教科横断的な教育活動に果敢に挑戦する教師
---	--	---

領域	中期経営目標	短期経営目標	項目番号	令和7年度								推進担当	
				目標達成のための 具体的方策	評価指標・評価基準								
					努力指標			成果指標					
未来を切り拓く力の養成	大きな夢と高い目標をもって、生徒が主体的に学び続け、学力を向上させる。	探究的な学びを重視した授業改善を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力及び主体的に学ぶ態度を育成する。	1	○校内における相互授業観察を年2回実施することで、日々の各教科の内容を関連化し、生徒が授業内容を多面的に学ぶ機会となるように働きかける。 ○総合的な探究の時間「〈わたし〉プロジェクト」について、探究内容と各教科の内容を相互に関連させられるように、教員全体への年間を通した細かな情報共有を行う。	探究的な学びを重視した授業改善を行った教員の割合			「私は、授業を通して知識理解を深め、それらを活かして意欲的に日々の学習活動に励んでいると思う。」と自己評価している生徒の割合			教育研究		
		主体的かつ継続的な学習を通して生徒の希望する進路の実現を図る。	2	○低学年時から定期的に進路志望調査及び個人面談を年5回以上実施し、「大きな夢と高い目標」を設定し、マイスケジュールを活用し計画的な学習に取り組ませる。 ○模擬試験では生徒個人の事前事後の学習を充実させるとともに、学校へのフィードバックを重視し指導のPDCAサイクルの取組を促進する。 ○進路研修会等を実施し、全教職員が系統的かつ組織的なキャリア教育・進路指導を行い、生徒の進路目標の実現を図る。	学びの基礎診断において、生徒が全国平均点以上を目標とするよう指導・声掛けを実施している教員の割合			学びの基礎診断における全国平均点以上の生徒の割合				進路指導	
					4	90%以上	3	70%以上	4	20%以上			3
					2	70%以上	1	70%未満	2	70%以上	1		70%未満
		定期考査やパフォーマンス課題などの評価方法を研究・実施し、適正な観点別の評価を行う。	3	○定期考査やパフォーマンス課題の評価をもとに、生徒一人一人が自分の学力を把握した上で、よりよい取り組みができるように教科担当や担任と連携を図り指導していく。 ○観点別評価の実施計画の検討と見直しを行う。	各教科の評価をもとに、生徒に現状把握をさせ、よりよい取組に向けて指導を実施している教員の割合			「定期考査やパフォーマンス課題の評価や観点別評価などから自分の学力を把握・分析し、次の取り組みへと繋げた」生徒の割合			教務		
					4	80%以上	3	60%以上	4	80%以上		3	60%以上
	2				40%以上	1	40%未満	2	40%以上	1		40%未満	
	<体育コース> 体育コースの教育活動の充実を図る。	4	○年間4回の集中講義を開催し、大学や関係機関から「メンタル」「フィジカル」「メディカル」「栄養」各分野ごとの専門の講師を招き、専門的な知識や技能を習得させ競技力の向上を図る。 ○研究発表へ向けた取り組みを充実させるために、近隣大学と連携を図り、年3回のサポートを受け、研究への取り組み方、まとめ方、プレゼンテーションの方法を学びスキルアップを図る。	「生徒が主体的に専門知識や技能を習得するとともにそれらの専門知識や技能を活用できている。」と実感する教員の割合			「主体的に専門知識・技能の探究を深め、競技力が向上した。」と実感する生徒の割合			体育コース			
				4	90%以上	3	80%以上	4	90%以上		3	80%以上	
				2	70%以上	1	70%未満	2	70%以上		1	70%未満	
	豊かな人間性の育成	自己指導能力を育成し、規範意識の向上を図る。	5	○生徒玄関前での登校指導（「朝読」と「遅刻防止・遅刻指導」）を全教員で行う。 ①My Schedule記入と朝読に学校全体で取り組めるよう、8時25分までに生徒玄関を通過させ、ゆとりをもって教室へ入室完了させる指導を行う。 ②8時30分からのMy Schedule記入と朝読に間に合わない生徒に対し、担任と連携をとり指導する。（遅刻指導）	「My Scheduleと朝読の指導に努めている」教員の割合			生徒玄関で遅刻指導を受ける生徒数の昨年度と比べた割合			生徒指導		
					4	95%以上	3	85%以上	4	15%以上減少		3	10～14%減少
2					75%以上	1	75%未満	2	10～1%減少	1		増加	
日々の清掃活動を通して、公共性や社会性の育成に努める。		6	○毎月1回大掃除を計画し、行事・汚れ具合を見て清掃重点ポイントを設定する。大掃除後は清掃監督の教員による点検を実施する。 ○7月と12月に、清美委員による掃除道具点検・交換を実施し、清掃への意識付けと清掃の効率化を図る。	清掃監督について、生徒と共に清掃活動に取り組み、掃除場所と掃除道具ともに清潔感を感じる教員の割合			清掃がしっかりと出来て清潔感があると感じている生徒の割合			保健厚生			
				4	90%以上	3	80%以上	4	95%以上		3	85%以上	
				2	70%以上	1	70%未満	2	75%以上		1	75%未満	
命の尊さを基礎に、いじめを生まない風土づくりを進める。 （支持的風土の醸成）		7	○学級・学年、教科、部活動等の諸活動において観察を深め、情報共有に努める。発見された生徒の困りごとに際しては、教育相談委員会(年間5回)・いじめ防止委員会(随時)等を通じて迅速かつ組織的に対応する。 ○教員・保護者・生徒アンケート（年間各2回）を有効に活用するとともに、集計結果を「生徒の安心・安全な学校生活」の尺度とする。 ○命を大切にする態度や思いやりの育成にどう取り組んでいくか、学年・分掌・SCと密接に連携し具体的に対策を立てる。	「私はいじめを見逃さないよう意識し、生徒に安心感を与えるよう心がけている」と感じる教職員の割合			「教員は生徒に対して常に安心感を与え、いじめを見逃さないと意識している」と感じる生徒の割合			生徒指導 教育相談			
				4	95%以上	3	90%以上	4	90%以上		3	85%以上	
				2	80%以上	1	80%未満	2	75%以上		1	75%未満	
働きやすい職場環境	教職員が、心身ともに健康な状態で生徒と向き合う。	業務改善を進めるとともに働き方の見直しを図り、全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校等時間を45時間以下にする。	8	勤務時間外や休憩時間は積極的に心身の休息に努めるなど、働き方の係る教職員全体の意識啓発を図り、年間月平均勤務時間外の在校等時間45時間以下の教職員を70%以上にする。	「勤務時間や休憩時間を意識し、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のとれた働き方をしている」と感じる教職員の割合			年間月平均の勤務時間外の在校等時間が45時間以下の教職員の割合			衛生委員会		
					4	70%以上	3	60%以上	4	70%以上		3	60%以上
					2	50%以上	1	50%未満	2	50%以上		1	40%未満

領域	中期経営目標	短期経営目標	項目番号	令和7年度						推進担当			
				目標達成のための 具体的方策	評価指標・評価基準								
					努力指標			成果指標					
地域交流・地域貢献	身近な地域や社会と連携を図り本校教育活動への理解や関心を高めるとともに地域に信頼される魅力ある学校づくりを推進する。	本校の魅力や情報、生徒の活躍を、中学生や地域に伝え学校への関心を高める。	9	日々の教育活動の様子や成果を積極的にホームページに掲載することによって、保護者及び中学生・地域の方々に魅力ある沼田高校を発信する。	ホームページの年間更新回数			ホームページは充実していると感じている保護者の割合			総務企画		
					4	180回以上	3	150回以上	4	85%以上		3	75%以上
					2	140回以上	1	140回未満	2	65%以上		1	65%未満
					具体的な計画								
			10	地域と積極的に連携を図り交流を深め、地域の文化・スポーツ活動に貢献する。	○近隣小学校への水泳指導の実施 ○市民との合同チームによる駅伝大会への参加 ○中学生へのサッカー指導の実施 ○小学生から一般市民との剣道交流の実施 ○幼稚園交流会の実施 ○吹奏楽部による学校や地域での演奏活動・行事への参加 ○生徒会による公民館等での子供会活動への参加 ○演劇部による弁護士会との合同人権劇の上演・介護老人保健施設への訪問交流活動の実施 ○「十六の会」、「ふるさとまつり」での美術部、書道部による文化活動の実施 ○献血活動の実施			○安佐南区スポーツセンター主催による水泳教室 ○地域スポーツクラブとの陸上競技練習会の実施 ○中高合同バレーボール練習会の開催 ○小中学生との柔道交流の実施 ○小中学生への体操教室の実施 ○小学生へのかけっこ指導の実施			生徒会 体育コース		

＜最重点目標（上記項目番号2、7、8）とした理由＞
●生徒が大きな夢と高い目標を持ち、希望する進路実現に必要な意欲と学力の向上を図る。
●一人ひとりの生徒が自らの存在感を実感でき、安心して過ごすことのできる、支持的風土の醸成に取り組む。
●業務改善や働き方改革の意識を高め、在校等時間の縮減を図るとともに生徒と向き合う時間を確保する。